

改革工程表2020を踏まえた改善計画の進捗状況

(株)海外需要開拓支援機構

○ 改革工程表2018(平成30年12月20日経済財政諮問会議決定)を踏まえた投資計画の進捗確認をこれまで行ってきたところ、2020年度末(2021年3月末)時点の実績を検証し、未達となったことを受けて、改革工程表2020(令和2年12月18日経済財政諮問会議決定)(※)を踏まえた改善目標・計画を策定・公表(2021年5月)。

(※) 改革工程表2020では、「各官民ファンド及び監督官庁は…前年度までに策定・公表された数値目標・計画と実績との乖離を検証し、乖離が認められる場合には改善目標・計画を策定・公表」と記載。

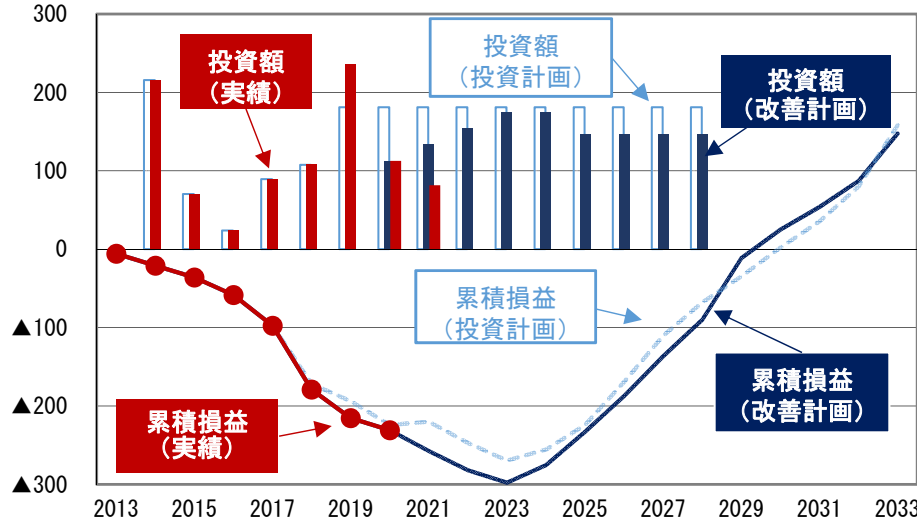
(※) 改革工程表2020においては、2021～2023年度において本計画と実績との乖離を検証し、乖離が認められる場合には機構及び監督省庁は速やかに組織の在り方を含めた抜本的な見直しを行うこととされている。

○ 本資料では、2021年度末(2021年9月末)時点の実績に基づき、上記の改善計画の進捗状況のフォローアップを行った。

(単位:億円)

＜改革工程表2020を踏まえた改善計画と進捗状況＞

(単位:億円)



	2021.3末		2021.9末		2022.3末
	計画	実績	計画	実績	計画
投資額	113	113	40 <small>(年度計画額の30%程度)</small>	82	134
累積損益	▲231	▲231	—	—	▲257

(※)CJは、2021年5月に改善計画を策定したため、2020年度までの改善計画と実績とは同じ値となっている。

(参考)

- ・事業期間:株式会社海外需要開拓支援機構法に基づく設置期限(20年間:2013年度～2033年度)。投資の終期は2028年度。
- ・IRR:4.4%(2021年5月に策定・公表した改善計画の実行における値)

○ 2021年度前半は、新型コロナの感染状況に留意しつつ、政策性・収益性の面で意義のある案件の組成等に取り組み、9月末までの投資額は82億円。

⇒ これは、2021年5月に策定・公表した改善計画に基づく、2021年度末の計画額(40億円)を上回っている。

○ 本年6月には新規案件組成のみならず既存投資案件の価値向上にも一層注力する観点から新たな役員を選任。引き続き、改善計画の達成に向けて、政策性・収益性の面で意義のある投資案件の組成等に資するようガバナンスの強化や適切な人材確保・効率的な組織運営による組織力向上を図るとともに、テレワークの推進によるオフィス規模の縮小・賃料削減、オンライン会議の活用などにより着実にコスト削減の取組を進める。